

5.WAIWAI のわミー こども食堂&無料塾

木下ひな乃

1.始めたきっかけと母体

子どもの貧困がマスコミに取り上げられるようになり、日本の子どもの貧困率の高さ、子ども間の格差の広がりや問題となっている中で、「のわみでも何かしなければ!」というみんなの思いから、理事会で決まったことがきっかけ。2013年に生活困窮者自立支援法が成立し、2015年に生活困窮者自立支援事業が国の制度としてスタートした。これは「現在は生活保護を受給していないが、生活保護に至るおそれがある人で、自立が見込まれる人」を対象に、困りごとにかかわる相談に応じ、安定した生活に向けて仕事や住まい、子どもの学習などさまざまな面で支援するもの。その生活困窮者自立支援事業の任意事業の中に、貧困の連鎖を断ち切るための事業「生活困窮世帯の子どもの学習支援」があり、名古屋市、豊田市などが行なっている。だが、一宮市は必須事業のみしかやらないため、名古屋市の無料塾が、市の事業として枠組みが確立されているのに対し、「のわみ相談所」はすべてがボランティアでの活動になっている。市の事業として「無料塾」を位置付けるようにと、市役所に相談に行ったが、「検討する」とだけで、何も動いてくれないため、自分たちでやることにした。

下の図1は、母体となるのわみ相談所の社会的包摂図である。

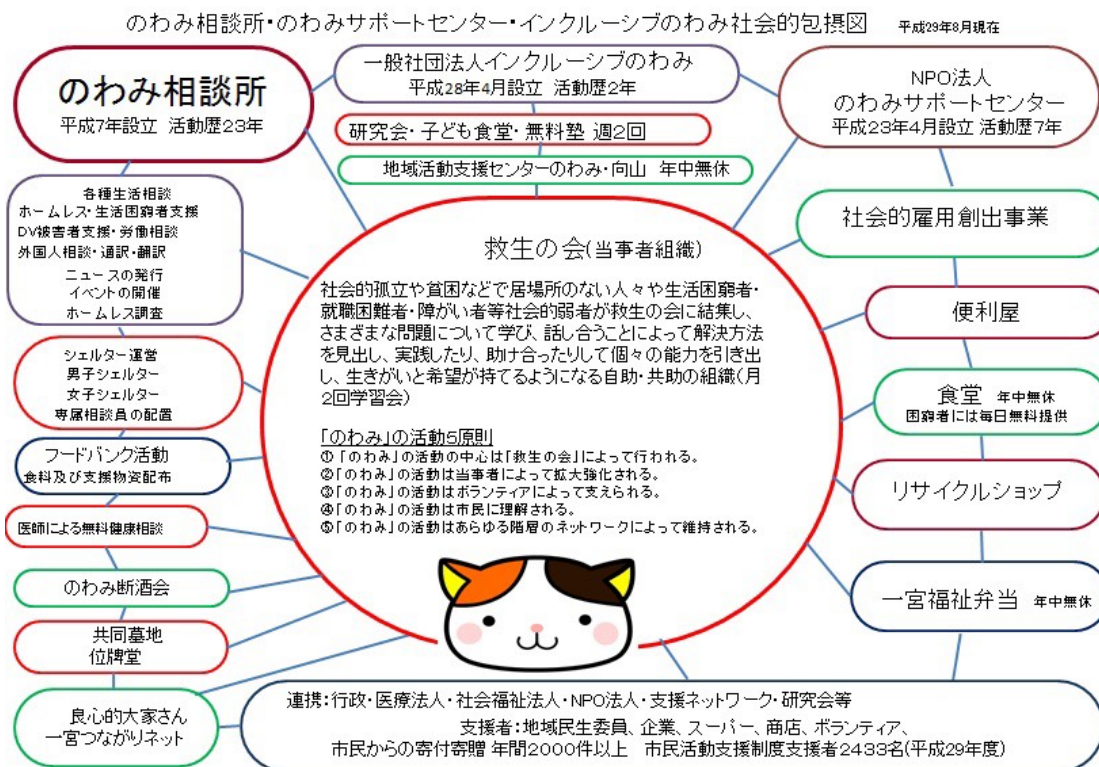


図 1

今から、20年ほど前の春、のわみ相談所、代表理事の三輪さんが1人のホームレスを支援したのがきっかけで「のわみ相談所」が設立されることになった。困窮者支援、ホームレス支援がまだ社会的に問題視されていないときであり、まずは野宿者の人たちと語り合う中で、住むところを確保しようということになり、最初のシェルターを作った。何よりも「のわみ」の活動の中心は当事者による活動を基本とするもので、「自分たちで、自立に向けての筋道を自ら作り出す」という考え方のシェルター建設が、「のわみ」の活動を方向付ける指針となった。

2.これまでの開催日時、食事メニュー、

初めて、WAIWAI のわみ塾が開講されたのが、平成28年の9月16日で、前回は104回目の開催であった。

2017年4月7日（金）

エビフライ/サラダ/卵豆腐/フルーツ/ゼリー/プリン/羊羹

2017年4月8日（土）

カレーライス/ケーキ/フルーツ

2017年5月5日（金）

唐揚げ/卵焼き/ウインナー/サラダ/ゼリー/フルーツ

2017年5月6日（土）

カレーライス/フルーツ/サラダ/ゼリー

2017年6月2日（金）

フランクフルト/カニクリームコロッケ/ゼリー/フルーツ/ゆで卵

2017年6月3日（土）

カレーライス/フルーツ/ゼリー/プリン

2017年7月7日（金）

唐揚げ/焼きそば/フルーツ/サラダ/プリン

2017年7月8日（土）

カレーライス/フルーツ/ゼリー

2017年8月4日（金）

唐揚げ/サラダ/パイナップル/ご飯

2017年8月5日（土）

カレーライス/サラダ/とうもろこし/プリン

2017年9月1日（金）

ロールキャベツ/サラダ/フルーツ/フライドポテト

2017年9月2日（土）

カレーライス/サラダ/フルーツ

2017年10月6日（金）

魚フライ/サラダ/フルーツ

2017年10月7日（土）

カレーライス/フルーツ/サラダ

2017年11月3日（金）

スパゲッティサラダ/サラダ/味噌汁/牛丼/フルーツ

2017年11月4日（土）

カレーライス/エビフライ/魚フライ/フルーツ

2017年12月1日（金）

唐揚げ/魚フライ/フルーツ/サラダ/ヨーグルト

2017年12月2日（土）

カレーライス/サラダ/フルーツ

2017年1月5日（金）

お弁当/リンゴ/クッキー

2017年1月6日（土）

カレーライス/餃子/野菜炒め/フルーツ

金曜日は、一宮福祉弁当さん

土曜日は、あらかじめ作ってくれるボランティアさんのカレー

3.参加者と推移

○子ども

新しい子ども来るが、あまり定着せず、8～11人はほぼ固定だが、来たり来なかったりする子どもいる。平均8～9人。

○大人

子どもの送り迎えのついでに、一緒に夜ご飯を食べたり、お手伝いしてくださっている。平均2～3人。

○ボランティア

金曜日と土曜日、両日合わせて13人が固定。

どちらかの曜日だけや、両日の方も、暇なときたまに来てくださる方もいる。

- ・天気などで多少変化するが、子ども、ボランティアの人数は安定している。
- ・安定はしているが、参加者が増えてはいない。

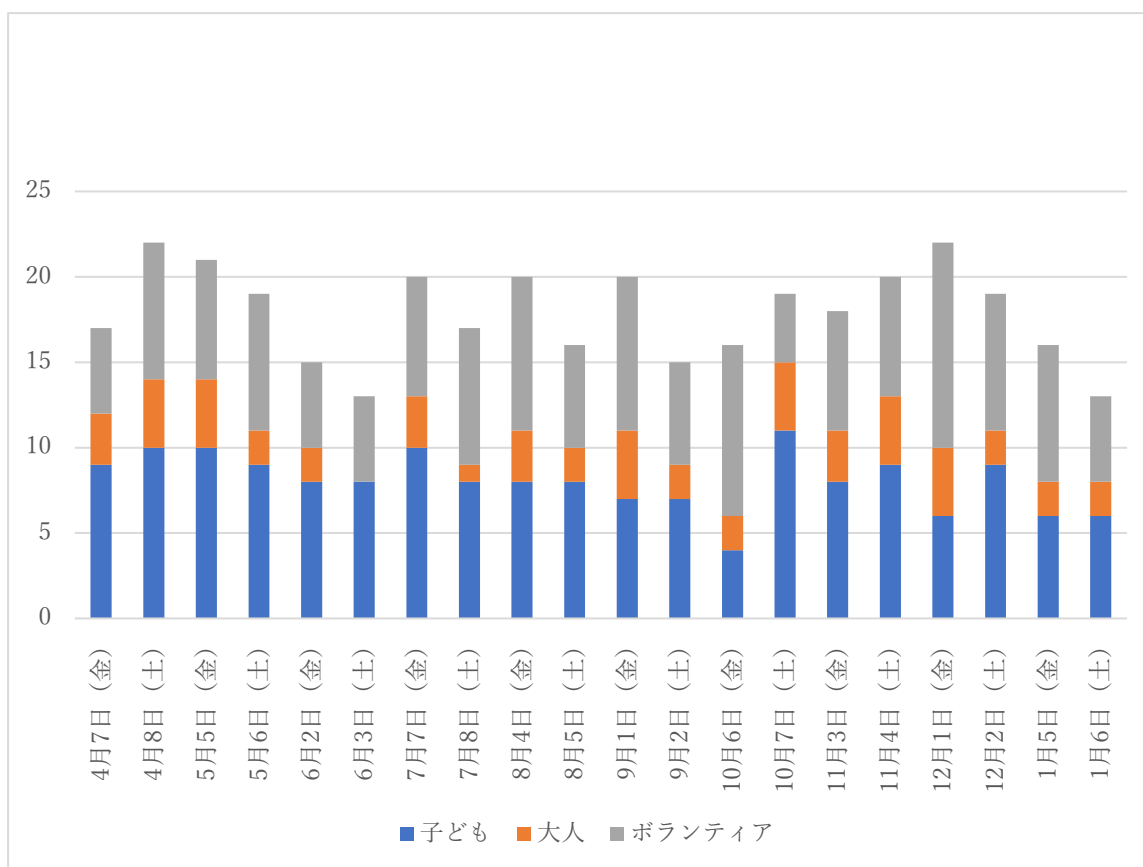


図 2 参加者人数

4.参加者について

- ・圧倒的に1人親が多く、子ども食堂に来ている中で両親がいるのは一世帯のみ。のわみ塾がなかったら、お金がないから塾にいかせられないが、のわみ塾のおかげで勉強の支援を受けることができているとの声が多いため、食堂より学習支援に力をいれている。
- ・不登校の子や発達障害かもしれない子もいるが、喜んで勉強している。
- ・だいたいの子が、自転車で来れる距離で、5～10分以内の距離。遠い子は、親の送り迎えや、近所の子と乗り合いでくる。
- ・兄弟での参加が多く、ピラなどを配ったことがないので、すべて人から人へ伝わって今の人数が集まっている。

5.各子ども食堂が抱えている課題と工夫

やはり、子ども食堂に来てくれる人数を増やすのが1番の課題であり、多くの人が来たら、場所も広いところを用意しているため、たくさんの人にきてほしい。

そのために、冬は特に日が落ちるのが早く、暗くて危ないので、迎えに行く体制も増やして行けば、来れる人も増えるのではないかと思っている。

また、学校訪問やピラ配りなどをしたことがないので、近くの大志小学校、向山小学校、富士小学校に配りにいく予定である。名古屋の小学校では、掲示板にピラが貼ってあったり、学校側が受け入れているのだが、近くの小学校は無料塾や学習支援についてどう思っているか聞き、そして、もっと学校側と連携をとる必要があると思っている。

6.WAIWAIのわみ塾をやってきて、変化したこと（鈴木さん）

認知度が広がって、いろいろな団体さんがレクリエーションや遊びをやってくれるようになった。また、一宮市内のボランティアさんの集まりが料理を作って持ってきてくれたり、学習品や服などの支援の輪が広がった。

7.これから WAIWAI のわみ塾をどうしていきたいか（鈴木さん）

支援や認知が本当にたくさん増え、だからこそもっと多くの子どもたちに来てほしい！勉強は嫌いけど、ごはんだけでも来れるような食堂に！誰もが気軽に来れるような食堂に！本当に必要な人に手を差し伸べたい！と思っている。

「子どもが1人でも来れる食堂」がほんとの子ども食堂だと思っているから、行政がもっと広報で宣伝することが必要であり、子どもを1人で送り出しても安心な食堂を作っていかなければならないと思う。例えば、児童館で子ども食堂をやれると、各学区にもあるし、すべての人に行き渡り、朝から夜までいることができ、安心してできるのではないかと思う。

8.子ども食堂を支える関係者マップ

